
旅は唐突に

イグス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

旅は唐突に

【Nコード】

N9246Z

【作者名】

イグス

【あらすじ】

草原と森の境にある国カーライル、そこに訪れた、旅人・キリトそこはいつにもまして活気が溢れていた。その日は年に一度ある『国王祭』の日だった。

しかし、その裏で何かが動こうとしていた

始まり

草原と山の境にある国カーライル、そこはいつにもまして活気が溢れていた。

そして遠くの方から見ている人影が複数いた

(…様)

(どうした?)

(どうやらあの国に『あれ』があるようでスーノ)

(そうか、では準備は?)

(は、ちゃんと予定道理に進んでいますスーノ)

(そうか、では決行は夜だ、良いな?)

(了解です)

そして、同じ時、違う場所でもカーライルを見ている人影がいた

(あそこに、『あれ』が……)

吹き荒れる風に髪を押さえ言つと、人影は姿を消した

始まりの王国

『此処がカーライルか』

青年キリトはある首都に立ち寄った。

カーライル王国、首都カーライル、そこは山と草原の境にある国、人々が幸せに暮らす。

キリトは街の中に入る、街には人々が集まり活気に溢れていた。

『それにしてもこの街は人が多いな』

他の街に比べて人が多いな、やっぱり首都は違うなー、俺は、街を歩き、道具屋の店に入る

「へい！いらっしやい！」

道具屋の奥にいる、スキンヘッドの男性が声を掛ける

『ポーション二個とエイドリンクを三個くれないか？』

「へいよ！そう言えばアンちゃんもいかして旅人かい？」

『ああ、他の街などには行ったことがあるが首都となるとこつも活気が違うのか』

「確かに、他の街と比べ活気は有りますが、

今日はカーライル王国が始めて国となった特別な日『王国祭』なんです、だから何時もより活気なんですよ」

『へー、そうなのか、もしかして俺良い時に来たかな』

「ハハ！そうだな、夜になったらパレード有るらしいから旅人さんも楽しんでくださいな！」

そう言うと、店長は、おいよ！ポーションとエイドドリンク合わせで400R、と出し俺は400Rを支払いポーション類をアイテム袋にしまい、じゃあなと言い道具屋を出た

『夜か、まだ真っ昼間だもんな、街でも見てまわって時間でも潰すか』

俺は、ふらふらと歩き出す。

カーライルは地下水道があり、山から流れた川がカーライルまで繋がっている用だ、街の数カ所に噴水があり子供たちが遊んでいる、一番驚いたのが街の中央に巨大噴水が有ることだ。

ふと、歩いているとある店から仄かな葡萄の香りが漂ってくる、その店の中に入る

「おう、いらっしやい旅人さんかい？」

『あつ、はい』

「すまんね今はワイン無いんだ」

あー、成る程ワイン葡萄の香りだったのか。

店のカウンターの奥には樽が敷き詰められていた

『いえ、結構です、俺まだ未成年何で、ちょっと葡萄の香りがしたからどんな店なのか気になって』

「そうかい、ならよかったよ、ワシは《琥珀の泉》でワインを売ってるバーグだ」

『キリトです』

「それにしても遅い、これじゃあパレードに間に合わねえ」

バーグが顔を歪めながら時計を見る、3時を回っていた

『どうかしたのか？』

「いやな、今日城であるパーティーに《琥珀の泉》が担当することになってな」

『へえー、すごいじゃないですか！』

「そうなんだが、肝心のワインが届かないんだ、これでは国王に出す顔がない」

そう言っつてバーグはまた時計を見る

『そのワイン何処から来てるんですか？』

「此処から東のゲンスと言う村だよ、はあ頼める知り合いもないしどうしたものか・・・」

一時の沈黙、そして

『なら俺が行きましようか？』

一瞬バーグが驚く

「良いのかい？」

それにキリトは頷く

『まあ、困ってる人を見過ごさすわけには行かないからな』

「そうかい、行ってくれるかい！ありがとうよ

」

『此処から東の方だったな？』

「ああ、東の門を出てそのまま東に進めば着く多分来る途中の道に馬車で来てるだろう、

名前はジーク」

『任せろ』

キリトはそう言つと《琥珀の泉》から出た

ドンッ

『「！」「！」「！』

キリトはフードの被った人物とぶつかった

フードの被った人物はバランスを崩しそうになるも何とか保った

『悪い、大丈夫だったか？』

「いえ、大丈夫・・・ごめんなさい」

フードの人物は声からして女性のようにだ、

女性は謝るとそのまま噴水広場の方へと走り去った

おっとこんなことしてる場合じゃない、

キリトは急いで東の門を抜け東にある草原へ進んで行った。

始まりの王国（後書き）

オリジナル小説！誤字脱字がありましたら
報告お願いします！

キリト：LV1

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9246z/>

旅は唐突に

2012年1月2日00時45分発行